

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 事業所番号 (3370500393), 法人名 (有限会社 スマイル・タム), 事業所名 (グループホーム 赤い屋根の家), 所在地 (岡山県笠岡市吉浜2485-5), 自己評価作成日 (令和3年 8月 1日), 評価結果市町村受理日 (令和3年 10月 21日)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: Field Name and Value. Field: 基本情報リンク先 (http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 評価機関名 (特定非営利活動法人 あしすと), 所在地 (広島県福山市平成台31-34), 訪問調査日 (令和3年 10月 15日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みんな一緒にの楽しい笑顔 ゆっくりのんびりと出来ることは自分らしく頑張ろう」という、生活に密着した理念を掲げ「悲しい時は一緒に悲しみ、嬉しい時には共に喜び、不安や寂しい時には傍に寄り添う」という手のひらのぬくもりを感じられる介護に取り組んでいる。入居者と家族の良きパートナーとなれるよう努力し、人生の最後に出会った人として「あなたに会えてよかった」と思えるような介護を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、池や里山など自然に囲まれた場所にあり、四季の移ろいを感じる事ができる。利用者が自分らしい生活ができるように、発する言葉を丁寧に聴き、変化に気付く姿勢を持ち、意向の把握に努めている。利用者への声掛けでは、スピーチロックにならないよう、誇りを損ねない言葉かけや対応について職員全体で知識を深め共有している。(岡山県高齢者虐待防止研修会に参加し、事例発表を行った)コロナ禍の中、家族との対話の機会を得るため、オンライン面会を取り入れ、家族との絆を大切にしながら、共に利用者本人を支えていく関係を築いている。食事は毎食手作りで、クリスマス会など行事食では、松花堂弁当を提供したり、カフェやビュッフェスタイルで食事を楽しめるよう工夫している。代表者は年2回の職員個人面談や毎月のフロア会議を行い、個々に話す機会を作り職員の意見・想いを聴くよう努めているまた、職員の意見を取り入れ、勤務希望・有給休暇の取得など働きやすい職場になるよう改善に努めており、職員からの信頼も厚い。(書面調査)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Results (self-evaluation), and Achievement Results (external evaluation). Rows 56-62 contain self-evaluation data with checkboxes and numbered options. Rows 63-68 contain external evaluation data with checkboxes and numbered options. The table concludes with the name '特定非営利活動法人 あしすと'.

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食堂やトイレ等、目に入りやすい場所に理念を掲示し意識向上を図っている。本人のペースに合わせた待つ介護に努めている。	事業所の玄関前と各フロアの職員にわかりやすい所に掲示している。問題が起きた時には、職員と一緒に振り返りや話し合いをして、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のデイサービスを通して地域との交流や保育園との交流が出来る。(コロナ禍の為、地域や保育園の交流は出来ていない。)	町内会に加入し、年2回の大掃除に参加している。散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、柿の差し入れなど交流がある。コロナ前は、保育園児と花見や餅つきなどの交流があったが、今年度は利用者と職員が丸めた餅を保育所へ持参した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生のいきいきチャレンジや高校生のインターンシップを毎年受け入れている。大学生のボランティアの受け入れも行った。(現在はコロナ禍の為、中止している)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事や自主研修の報告をして地域の方々との意見を聞かせていただきサービス向上に活かしている。(コロナ禍の為、笠岡市に自粛の報告を提出し、職員のみで資料配布し、各部所で行なっている)	コロナ禍のため、行政職員の参加は得られなかったが、勉強会資料・ヒヤリハット報告書を提出して事業所の様子を伝えている。コロナ以前は、地域住民から火災避難訓練に出席の要望があり、一緒に取り組む機会もあった。	運営推進会議メンバーへ事業所内の現状報告を行うなど、意見やアドバイスがもらえるよう関係の継続を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当の人とは些細な事でも相談にのってもらっている。何でも話し合える関係作りをしている。	市担当者へ、加算についてなど不明点や相談事があれば訪問や電話で聴くなど、協力関係を築いている。「感染対策」や「高齢者虐待防止」など市主催の研修に積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1度、又、年間研修計画でも身体拘束を取り上げ、職員全体で身体拘束廃止の取り組みを行っている。高齢者虐待防止研修会等参加して、意識を高めている。	3か月毎に身体拘束委員会を開催し、内容は各フロア会議で職員に周知されている。また、身体拘束が必要な時は、すぐに委員会を開催し検討している。帰宅願望のある利用者に対して、思いに寄り添った細かい声かけやケアで気分転換を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	岡山県高齢者虐待防止研修会に参加し、事例発表した。特に、スピーチロックの知識をスタッフ全体で深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	笠岡市/里庄町市民・町民後見人養成課程の実習生を受け入れこれから益々勉強していきたい。井笠いきいきネット専門職の勉強会にも参加している。(現在はコロナ禍の為、中止している)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回以上「スマイルメール」という新聞を発行し、ご家族にも送付している。又、毎月の請求書の中に一人ひとりの1ヶ月の様子、写真を入れて知らせしている。玄関前・各フロアーに意見箱を設置しているような意見を取り入れようとしている。	利用者は日常生活の中で、家族はオンライン面会時や電話で要望を聴いている。苦情は記録に残し、職員で共有し柔軟に対応している。オンラインが困難な場合は、利用者の様子を見ながら、窓越しの面会に変更するなど随時対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同スタッフ会議を2ヶ月に1回行い、親睦会も年2回位設けて職員の意見や提案を聞き入れている。(現在はコロナ禍の為、2ヶ月に1回各フロアーの担当者が、年間研修計画に沿った資料を作成して、それぞれのフロアーに配布している。)	毎月のフロア会議で、職員の要望を聞く機会があり、対応している。誕生日会やクリスマス会など行事内容は、職員が中心となり意見を反映させている。事業所は職員の意見を積極的に取り入れ、勤務希望・有給休暇の取得・退職金制度の構築など働きやすい職場になるよう改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各フロアーのスタッフ会議に同席して、スタッフの意見・希望を聞き入れている。スタッフから退職金制度・年間休日・基本給のup等の要望があり前向きに検討し、実行されている。勤続表彰者を5年・10年・15年と節目の年に表彰し、金一封を付与されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は年2回個人面談を行い、個々に話す機会を作っている。その他にもスタッフの意見・想いを常に聞けるよう努めている。又、自分たちで年間研修計画を立てて研修の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	笠岡市地域密着拠点推進会議に出席したり認知症多職種研修会・認知症サポーター養成講座・認知症キャラバンメイト養成講座に参加して他の施設の方と交流している。(コロナ禍で出来ていない。)		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず利用者の方が私達を信頼して下さるよう、ゆっくりスキンシップを取りながら、話を傾聴するように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時・入居日に時間を取り、ご家族との話し合いに努めている。又、電話でのやりとりも頻繁に行なうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話を真剣に傾聴して、ご家族の要望に応えられる支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ・新聞紙たたみ、食器洗いを率先して下さる方には一緒に寄り添い食器洗いをしてもらおう等、その人が出来ることを見つけ一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方の現状報告を常に行なって、ご家族の方をまきこんで一緒に考え、行動とれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・本人の意向のもと、出来るだけ支援している。(現在はコロナ禍の為、ZOOMでのオンライン面会を行っている)	コロナ禍にあるため、利用者の状態を見ながら、オンライン面会や窓越しで家族との面会を行っている。電話をかけたい・手紙を書きたいなどの要望があれば、家族の協力を得て、馴染みの人との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に発語練習をしたり歌ったりしている。利用者の方同士で漢字や数字のゲームをし、教え合ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もお見舞いに行ったり季節事のお見舞いを出すなど努めている。米寿の祝にスタッフ全員で手紙を書いてお祝いをした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	赤い屋根の家独自のアンケートや様子観察から入居者一人ひとりの思いを理解しコミュニケーションを大切に穏やかな対応をしている。不穏の方にはしっかり寄り添い関わりを持って意向に沿えるよう言葉掛けに努めている。	普段の何気ない会話の中で、表情を伺いながら質問したり、自分の思いも伝えながら利用者の意向を把握している。利用者の会話・表情から得たニーズや気づいたことなどを連絡ノートに記載し、フロア会議で報告し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後において、ご家族の方と時間の許す限りゆっくり話し合い、その人の生活歴を聞くよう努めている。アセスメントに重点をおき、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの思いを大切に個々の対応をしている。スタッフの休み明けの日には記録や他スタッフから現状報告を聞き、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の入居者に合わせた支援を皆で考え、現状に即した介護計画を作成している。半年ごとに介護計画の見直しを行う事で利用者の現状を把握するように努めている。	利用者や家族の意見・要望を把握し、アセスメント後に課題とケアについて相談しながら介護計画を作成している。毎月のフロア会議で、利用者の様子を把握し、計画の見直しは6か月ごとに行っている。また、状況変化等あればその都度、計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を几帳面に記録し、又スタッフ同志の注意すべき事もノートに記録し、全員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院との密接な関係があり、いつでも相談に応じてもらえる。急変に対しては往診もしてもらえ、安心を得ている。	入所時に、利用者の診断書や看護要約から情報を得ており、協力医との協力関係にある。事業所での対応を説明し、納得を得て、協力医に変更してもらっている。2週間毎に往診があり、夜間・緊急時にも対応が可能で、適切な医療を受けられるように支援している。歯科往診も必要時受けることが可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に一人ひとりの看護記録を作成してもらっている。その記録を介護員と共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会に行き担当の先生と連携を取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの意向を確認している。実感のない時から考えてもらい、ご本人とご家族の意思に出来るだけ添えるよう最善を尽くしている。	重度化した場合は、医師から家族に説明を行い、その後も意思確認・方針の共有を行い、利用者・家族の意向に沿った支援となるように努めている。家族の要望があれば看取りも可能で、医師・看護師・家族と密に連携し、状態や対応について情報を共有し、最期に後悔が残らないよう、家族に寄り添った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットを積極的に書き、原因と対応・今後の対策を検討し、問題発生防止に繋げていこうとしている。毎年、年1回消防の方から救命救急講座を受けている。(現在はコロナ禍で受けれていない)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の方や市の方も一緒に、夜間介護者1人を想定しての訓練・消火器の使い方を、地域の方と一緒に連携を取り、行った。地域の方と一緒に実施することで繋がりを大切にしている。(現在はコロナ禍の為、消防の方にきていただきスタッフのみで消火器の使い方の指導を計画している)	消防署の協力も得て、年2回の避難訓練(昼間・夜間想定)と、消火訓練を利用者と共に行っている。地域住民に災害時には事業所への避難を勧めているため、地域との協力体制が築けている。地震対策では、家具の転倒防止に努めている。非常食として、冷凍庫に2-3日分の食材と米150キロの備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの思いを理解し、排泄時の声かけはプライバシーを損ねないような気配りを持った声かけをしている。否定はせず傾聴行いその方にあった言葉掛けするよう心掛けている。	入浴や排泄介護では、1対1での対応とし、プライバシーや羞恥心に配慮している。生活全般の声掛けでは、スピーチロックにならないように人格を尊重し、誇りを損ねない言葉かけや対応について、職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者が自由に思いを伝えたり感情を表したり出来る様に、一人ひとりの特徴やペースに合わせて優しく穏やかに接し、入居者の言葉や態度での訴えを見落とさず受け止めていく様、心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食場面ではゆっくりと味わって食べている方、早く済ませてソファーに移動する方、食事介助を必要とされる方などおられ、職員は常に入居者優先を心にとめ、入居者のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフがその人らしい髪型に整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の食器運びや、トレイ拭き・テーブル拭き・食器洗い等、スタッフと一緒に楽しんでいる。	食事は毎食手作りで、長寿会やクリスマス会などの行事食では、松花堂弁当風にお重に詰めて提供するなど工夫している。野菜の下ごしらえやテーブル拭きなど可能な家事を職員と行い、時にはカフェやビュッフェスタイルで食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を手作りしている。嚥下状態に合わせて形態を工夫し食べやすくしている。水分補給には気をつけている。飲み込みの悪い方にはお茶ゼリーを作り水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中での汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員、毎食後に口腔ケアを行っている。義歯は毎食後流水で洗い、週2回は洗浄剤を使用し清潔を保っている。月に1回は歯科研修をして入れ歯の手入れの仕方、口腔ケアを学習している。自分の歯の方は週1で訪問歯科診療治療を行っている。その為口臭もなくなってきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間のチェックをして、入居者一人ひとりの状況を把握し、誘導や動作の援助を行い、自立に向けた支援を行っている。	排泄表を参考に、排泄パターンを把握し、誘導・声掛けを行ない、昼間はトイレでの排泄を促している。夜間は、個々の状況に応じて対応している。身体機能維持のために生活リハビリで筋力低下を防止し、一部介助や見守りで自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックも記録して一人ひとりの状態の把握に努めている。便秘の人には水分補給したり乳製品や食物繊維を食べていただき運動も心掛けている。Dr指示により3日目には必ず排便があるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェック等で健康状態を確認し、本人の意思を確認してから入浴の可否を見極めている。便失禁があればシャワー浴をその都度行っている。個々の残存機能を生かす出来ることはしていただいている。	午前中に週2回の入浴としているが、利用者の希望や体調・タイミングに合わせて入浴の支援をしている。浴槽につかれない人は、シャワー浴や清拭で対応をしている。拒否のある利用者には、声掛けや担当者が交代するなど対応の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝寝・昼寝を日程としている。利用者の方には居室やソファ等、希望の場所で休憩して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は一日分を個人別に分けてケースに保管している。担当職員が一人ひとりに手渡し、飲み込みを確認している。又、薬の変更や新しく投与する際には、申し送り帳や薬袋等に記入し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ等声掛けし、一緒に取り組んでいる。又、編み物の好きな人には毛糸を、折り紙の好きな人には綺麗な折り紙を、計算の好きな人には計算問題を、塗り絵の好きな人には色鉛筆等を、個々の楽しみが速やかに行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の買い物を楽しむために、一緒に外出をしている。(現在はコロナ禍の為、出来ない)時候のいい時は池の周りの散歩、近くの花畑へのドライブを他に人に会わないようにしてコロナ禍でも楽しんでいる。	気候の良いときに、近所への散歩(池沿いで桜の花見ができる)や季節の花見(紅葉狩り・菜の花畑など)に出かけて、気分転換や活気ある生活が出来るよう支援に努めている。歩行が難しい人も車いすを利用してテラスでの日光浴やドライブなど外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いのもと、お金をもっていないと落ち着かないという人には、お金を代表が預かっていると伝えて安心していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人要望のもと家族にTELLしたり手紙のやりとりの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の壁面に季節の飾りを手作りして飾っている。入居者さんと一緒に季節の飾りを作る事もある。それを共用部分の壁面に飾っている。窓からの見晴らしで四季を感じていただいている。	ベランダで外気浴ができたり、大きな窓から外を眺めて、季節を感じることができる。ソファでくつろぐなど、それぞれが思うがままに過ごせるよう工夫している。各ユニットに空気清浄機と加湿器を備え、利用者の健康維持に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビングにソファを置き、その時の気分で自由に座って過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人手作りの物を飾ったり、ご自分の家から持って来られた思い出の物を置いたりするなどして、各居室で思い思いのお部屋の空間となるように配慮している。TVを見たい方は居室に設置して、のんびりと過ごしていただいている。	身体状況に合わせて家具やベッドを配置している。自宅からテレビや位牌を持参したり、家族の写真・本人の手作り作品などを飾り本人が落ち着いて過ごせる空間となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入口には写真と名前を掲げている。トイレは「トイレ」と書いて、風呂は「浴室」と書いて「ゆ」ののれんをかけている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議メンバーへ事業所内の現状報告を行うなど、意見やアドバイスがもらえるよう関係の継続を期待します。	地域の方にグループホームの現状を知っていただき、関係性を築く。	コロナ禍の為、運営推進会議の開催は行っていませんが、2か月に一度グループホームの現状を地域の方にお知らせする。	2か月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()